

61 ニコチン刺激によるオキシトシン分泌に及ぼすアルコールの影響についての検討

福島医大 第三内科

小川さつき, 高橋重雄, 橋内芳一,

工藤信一, 福地総逸

福島医大 RI 研究室

斎藤 勝

われわれは、すでに Oxytocin の分泌がニコチンにより刺激されることを発表した。ADH 分泌はニコチンによって刺激され、この反応はアルコールによって抑制される。そこで Oxytocin が ADH と同様の機序によって刺激されるのか、又は ADH 分泌刺激に随伴して分泌されるのかを明らかにするため本実験を行った。

〔方法〕健康男子 3 例について、午前 9 時安静空腹時に肘静脈より採血の後、15 分間で 120 ml のウイスキーを飲ませ、30 分後に採血し、ついで 10 分間に 2 本のタバコを喫煙させた。喫煙開始後 15 分、30 分および 45 分にそれぞれ採血し、飲酒前、飲酒後喫煙前、および飲酒後喫煙後の血漿 Oxytocin 含量を測定した。測定は、すでに発表した radioimmunoassay により行った。

〔結果〕飲酒前、飲酒後喫煙前、飲酒後喫煙後 15 分、30 分および 45 分における血漿 Oxytocin 含量は、それぞれ 3.1 ± 1.0 , 4.2 ± 2.1 , 13.1 ± 10.9 , $7.6 \pm 3.8 \pm 2.2$ pg/ml であった。血漿 Oxytocin 含量は 2 例において喫煙後 15 分に、1 例においては喫煙後 30 分に上昇した。血漿 Oxytocin 含量の最高値は飲酒前の値の 4.7 倍であった。

〔考察並に結語〕以上の結果から、ニコチンによる Oxytocin の分泌刺激は、アルコールにより抑制されないため、Oxytocin は ADH と異なる機序により分泌されていると考えられる。

62 PTH (副甲状腺ホルモン) RIA Kit の基礎的検討。

独協医科大学 臨床病理 (中検)

○ 中井利昭, 鈴木一夫, 山田律爾

目的：原発性副甲状腺機能亢進症は、食欲不振、倦怠感などのきわめて漠然とした症状を示すにすぎない例が少なくないばかりか、無症状に近い軽症例も増えてきた。このような例では、血清カルシウムとともに血中副甲状腺ホルモン (PTH) の測定が唯一の、また最も有用な検査法である。しかし PTH の測定 Kit は感度が必ずしも充分でない点もあったが、今回 PTH の新しい RIA Kit を入手したので、この基礎的検討を行なった。

方法：PTH (栄研 ICL) RIA Kit について、まず基礎的検討として、感度、精度、希釈テスト、回収率を検討した。ついで健康者について、この RIA Kit での PTH レベルの正常値を求めた。さらに慢性腎不全患者について、PTH レベルを求め健康者と比較検討した。

結果：I 感度として標準液 0.1 ng/ml の結合型放射性率はゼロサンプルのそれに比して低値であるので少なくとも 0.1 ng/ml までの測定感度が得られるものと推定される。精度として測定内変動係数は 74% であった。回収試験、希釈試験でも良好な成績が得られた。

II 健康者 54 名について、血中 PTH レベルは $0.1 \sim 0.7 \text{ ng/ml}$ であり、Mean \pm SD は $0.4 \pm 0.2 \text{ ng/ml}$ であった。少なくとも健康者の上限は 0.6 ng/ml として良いと思われる。

III 腎不全のためのアシドーシスによって尿中カルシウムの排泄の増加がおこり、さらに血清カルシウムの低下をきたし、続発性副甲状腺機能亢進症をおこしていると思われる、慢性腎不全患者 40 例ではその血中 PTH 値は $2.0 \sim 7.8 \text{ ng/ml}$ の範囲で高値を示した。

結語：副甲状腺機能検査として、重要な血中 PTH 測定 RIA Kit について基礎的検討を行ない、その感度、精度とも優れている点を明らかにし、また、健康人の PTH レベルが $0.4 \text{ ng/ml} \pm 0.2 \text{ ng/ml}$ であることを示した。また慢性腎不全で続発性副甲状腺機能亢進症をひきおこしている症例では PTH レベルは $2.0 \sim 7.8 \text{ ng/ml}$ の範囲であることを示し、今後、ルーチン検査として、有用な RIA Kit であることも明らかにした。